

# 1月31日発売の週刊文春（2月7日号）に 掲載された弊社記事について

1月28日に週刊文春編集部より、新造船に関する取材を受け、下記四点についての質問が寄せられました。これに対し、同日に弊社から同編集部宛てた回答書を下記の通り公開いたします。

なお、新造船計画の遅延は安全基準の変更に伴うものであり、掲載された記事のタイトルにある「計画が座礁」という表現につきましては、実情を著しくゆがめる表現であり、既に同編集部へ抗議と訂正を書面にて要求しております。新造船の建造計画は新日程において順調に進んでおり、新日程でのお客様の募集も再開しております。

## ■ 週刊文春編集部から寄せられた質問(要旨)

質問1. 「造船契約について」

質問2. 「エコシップ募集について」

質問3. 「エコシップ予約金の使途について」

質問4. 「造船資金調達について」

## ■ 弊社からの回答

### 質問1. 「造船契約について」への回答

アークテックヘルシンキ造船所とは正式契約を締結しております。契約内容と時期、その履行状況等については、お互いに守秘義務を負っています。これは、取引条件、設計に要する期間、施工に要する期間等は全て造船会社の競争力の源泉によるものですから、造船会社として開示しないよう求めるのは合理的理由があるもので、一般的な造船契約の例と理解しています。進捗状況についても守秘事項に該当しております。新しい安全基準への対応が必要となったこと以外は予定どおりです。

1865年に創業したアークテックヘルシンキ造船所は、これまでに大型客船やフェリー、砕氷船など500隻以上を建造し、特に1990年代からは、世界最大のクルーズ会社カーニバル・クルーズラインの客船を中心に5万トンから8万トン級の大型客船を15隻以上建造するなど、国際的に高い評価を得ております。例えば、コスタアトランティカ(85,000トン)、カーニバルファンタジー(70,000トン)といった著名な客船やその姉妹船を建造しております。また、北欧の造船所らしくエコテクノロジーの導入にも大変積極的です。弊社では、世界で最も地球にやさしい客船「エコシップ」の建造にふさわしい造船所と捉えており、これらを総合的に判断して選定いたしました。

## 質問2.「エコシップ募集について」への回答

昨年半ばから、新基準の適応によって完成時期に影響が出る可能性が造船所より指摘されましたが、弊社としては、リピーターの方々の大きな期待もありましたので、2020年3月の完成を諦めることなく、あらゆる工期短縮の可能性の追求を造船会社とともに行ってまいりました。しかし、造船会社より、最終的に対応が間に合わないとの回答が出たため、昨年12月末には完成を2022年3月に延期するしかないとの結論に至りましたので、その時点からはエコシップクルーズの受付はおこなっておりません(※)。

## 質問3.「エコシップ予約金の使途について」への回答

いただいた旅行代金は、弊社の建造計画を円滑に運ぶ原資となるものですから、建造資金に充てる予定はありますが、造船会社に既に支払ったのか、いつ支払うのか等、支払時期については、造船契約の取引条件に該当する守秘事項となっております。

集まっている額のご質問については、当社の販売能力、経営ノウハウに関わる内部情報となっております。なお、貴誌の記事によって、不安を覚えたお客様全員が取り消しを申し出る事態となっても、当社にとっては痛手ではありますが、手元資金によって返還に応じられる程度の金額であり、当社の財務基盤にまでは影響しません。

## 質問4.「造船資金調達について」への回答

当社の資金調達能力、調達方法は経営ノウハウに関するもので、具体的方法、調達額を開示することは当社の他社に対する競争力を落とすことと考えます。造船所と協調して、国際的な客船造船ファイナンスの枠組みを基本に順調に進めております。

以上です。

---

(※) 2020年出航のクルーズ受付は停止とし、現在は新日程の2022年出航クルーズで受付を再開しております。